Nestlé Good food, Good life

共通価値の創造

『ネスレ アニュアルレビュー 2021年』抜粋

ネスレは、
食の持つ力で、現在そしてこれからの世代の
すべての人々の生活の質を高めていきます。

主要な非財務指標パフォーマンス

ネスレは、社会、環境のコミットメントを通じて共通価値を創造します。

進捗を評価するために、業績を支え、また株主およびステークホルダーの皆さまのために価値を創造する、一連の総合的な指標を使用しています。主要指標の一部をここに紹介します。全指標については、ネスレの報告書『Creating Shared Value and Sustainability Report』をご覧ください。

ネスレのコミットメント

2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ
スコープ1、2、3の温室効果ガス排出量を
2025年までに20%、2030年までに50%削減
(2018年比)

ネスレのKPI*

400万トン

2018年以降にネスレの各種プロジェクトを通じて
達成した温室効果ガス排出削減量
2021年、さらに970万トンの除去に着手、
削減量は合計1,370万トン(CO_2換算)

順調に進行中

ネスレのコミットメント

2022年末までに
肉、パーム油、パルプ・紙、大豆、砂糖について
森林破壊ゼロの一次サプライチェーンを実現

ネスレのKPI*

97.2%

2021年、一定のサプライチェーンにおける
森林破壊ゼロの割合

順調に進行中

ネスレのコミットメント

2025年までにネスレ製品パッケージの
バージン(未使用)プラスチック使用量を
3分の1削減

ネスレのKPI*

8.1%

2021年、ネスレ製品パッケージの
バージンプラスチック使用量削減割合
(2018年比)

順調に進行中

ネスレのコミットメント

2022年までに上位200人以上の
上級管理職に占める女性の割合を
30%に引き上げ

ネスレのKPI*

27.2%

上位200人以上の上級管理職に占める女性の割合

順調に進行中

* 非財務分野のパフォーマンス指標は、www.nestle.com/esg-kpisに掲載されている『Reporting Scope and Methodology for ESG KPIs(ESG KPIの報告範囲と指標)』に定義されています。

EYは、このページの4つの主要パフォーマンス指標に関し限定的保証を行っています。EYの独立監査人としての結論を記載した保証声明書は、www.nestle.com/assurance-statementに掲載されています。

共通価値の創造

「ネスレ カカオプラン」
ネスレは、子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、Didoko（コートジボワール）などのカカオ生産者のコミュニティに投資しています。

400万トン
2018年以降、ネスレの各種プロジェクトを通じて達成した温室効果ガス排出削減量（CO_2換算）

97.2%
一次サプライチェーンにおける森林破壊ゼロの割合

8.1%
ネスレ製品パッケージのバージンプラスチック使用量削減割合（2018年比）

27.2%
上位200人以上の上級管理職に占める女性の割合

ネスレは、農業従事者による再生農業の導入を支援するため、2025年までに12億スイスフランを投資します。

ネスレの存在意義は、「食の持つ力で、現在そしてこれからの世代のすべての人々の生活の質を高めていきます」です。ネスレはこの存在意義に動機付けられて、現在そしてこれからの人々やペットの生活、そして地球に対して、プラスの影響を与えるべく取り組んでいます。

共通価値の創造に向けたアプローチの進化

共通価値の創造（CSV）は、常にネスレの事業の根幹を成してきました。私たちは長年、株主の皆さまと社会の双方に価値を創造することによってのみ、長期的な成功を収めることができると考えてきました。過去数十年間、私たちの活動や製品は、社会にプラスの影響をもたらし、ネスレの継続的な成功を促すことを目指してきました。

この共通価値の重視が、これまで以上に重要になっています。史上初となる国連食料システムサミットでは、社会が持続可能な開発目標（SDGs）を達成するには、食料システムの変革が必要であることが強調されました。SDGsの達成期限となる2030年まで8年しかない今、ネスレは、世界を養い、公平で、温室効果ガス排出量実質ゼロであり、かつ自然にプラスの影響を与える食料システムの実現に向けた変革の加速に全力で取り組んでいます。

重要課題を指針として

動き続ける世界で、ステークホルダーの優先課題は絶えず変化しており、期待に応え続けるために活動を見直さねばなりません。ネスレは2年ごとに、ステークホルダーとの対話に基づく包括的な重要課題評価を実施し、ネスレの事業およびステークホルダーにとって最も重要となる、経済、社会、環境への影響を特定して、優先順位を設定しています。この分析は、社内の資源を注力する領域、また報告書の対象分野を決定する際の指針となります。

重要課題評価はネスレのエンタープライズ リスクマネジメントのプロセスに完全に統合され、より広範なサステナビリティ関連の影響が、全社的に検討すべきリスクと機会に含まれるようにしています。財務評価のセクションには、ネスレの事業に関する主要なリスクについてさらに多くの情報を掲載しています。

2021年は、ステークホルダーとの対話を補完するために、試験的にデータに基づく洞察を活用しました。その結果、気候変動と脱炭素化の優先順位が世界的に高い一方で、水、人権、責任ある調達が引き続き重要であることが判明しました。ダイバーシティとインクルージョンだけでなく、生物多様性の重要性が高まっていることも確認しました。ネスレの報告書『Creating Shared Value and Sustainability Report』では、すべてのテーマを掲載しています。

ここでは、主に重要課題評価で特定された重要な影響を取り上げます。ネスレの投資家にとって最も関連性が深いテーマを確実に取り上げるために、これらの分野を加工食品・ノンアルコール飲料用のサステナビリティ会計基準審議会（SASB）基準と照らし合わせました。2022年は重要課題評価を全面的に見直す予定です。

ネスレの報告書『Creating Shared Value and Sustainability Report』は、www.nestle.com/csv-report-2021をご覧ください。重要課題について詳しくは、ネスレのウェブサイトwww.nestle.com/materialityをご覧ください。

環境再生型の食料システムを大規模に推進

食料システムの変革は、気候変動に関連する切迫した課題に取り組み、2030年までに達成を目指す国連持続可能な開発目標を実現する鍵となります。

OUR VOICES 従業員の声

「農業プロジェクトを手がけてきた20年間の実績を足がかりに、今こそ大規模に推進すべきです」

パスカル・シャポー
農業部門責任者（スイス）

ネスレはこの緊急性を意識しています。長年掲げてきた共通価値の創造へのコミットメントを基盤として、私たちは、持続可能性の先にあるリジェネレーション（環境再生）を目指す旅路に乗り出しています。環境の保護、再生、回復を支援し、農業従事者の生活を向上させ、農業コミュニティのウェルビーイングを高めます。

2021年9月、私たちは環境再生型の食料システムを大規模に推進するネスレのプロミス（約束）を開始するためオンライン対話を実施し、この意欲的な取り組みにおける次のステップへ踏み出す後押しをしてくれる多様なステークホルダーと関わり、耳を傾けました。

ネスレは、再生農業を優先することで短期的にも長期的にも最も大きな影響を与えることができると考えています。そうすることで、土壌の健全性を高め、水循環を回復させ、長期的な生物多様性を向上させることができます。この取り組みは、「ネスレ カカオプラン」、「ネスカフェ プラン」、「ネスプレッソAAAプログラム」などのネスレの各種プログラムに立脚するものです。こうしたプログラムの成果が持続可能な食料生産の基盤を形成し、何より重要な点として、ネスレの気候変動対策目標の達成に寄与します。

公正な移行を実現するためには、移行に伴うリスクとコストを担う世界の農業従事者への支援が欠かせません。そのためネスレは、農業従事

者が環境再生型の農業手法を導入できるよう、2025年までに12億スイスフランを次の3つの主要分野に投資します。

- 最先端の科学技術
- 投資支援
- 再生農業で栽培された作物への割増金

ネスレが考えるリジェネレーションの定義は、農業手法を基本としますが、それだけにとどまりません。今後何世代にもわたって世界に食料を供給するため、ネスレのアプローチを通じて、単に害を与えないだけではなく、食料システム全体にプラスの影響を与えねばなりません。

ネスレのフォレストポジティブのコミットメント

ネスレのフォレストポジティブのコミットメント

過去10年間の活動と知見に基づき、3本の柱から構成されるフォレストポジティブ戦略は以下のことを目指します。

- 肉、パーム油、パルプ・紙、大豆、砂糖について、2022年末までに森林破壊ゼロの一次サプライチェーンを実現し維持する（2021年、97.2%を達成）
- 先住民および現地コミュニティの権利を尊重しながら、荒廃した森林や生態系の回復を支援するため、年間2,000万本の植樹をはじめ、サプライチェーン内で取り組む
- 調達先の重要な景観を改善するために、政府、サプライヤーなどと協力して大規模なプロジェクトに取り組む

*Cerelac*は、栄養価が高く消化しやすいインスタントシリアルで、生後6カ月以上の乳児の補助食品に適しています。

責任あるマーケティング

2021年、ネスレはFTSE4Good（フィッチ・フォー・グッド）母乳代替品指標に登録され、またANTI母乳代替品指標では2位となりました。母乳代替品メーカーのマーケティング活動の評価が実施されたメキシコとフィリピンでは、ネスレの事業が高い基準を満たしていると評価されました。

2021年前半、ネスレはBMS Call to Action（母乳代替品に関する行動喚起）に対する回答を発表しました。ネスレは、2022年末までに、すべての国で生後6カ月までの乳児用調製粉乳の販売促進を中止することを単独でコミットしました。

食の持つ力を活用

食には、単なる栄養の摂取以外に多くの意味があります。人との交流や食べる楽しみも重要な要素です。ネスレは、責任をもって摂取すれば、嗜好品もバランスのとれた食生活に組み込むことができると考えます。ネスレは味に妥協することなく、全粒粉、タンパク質、食物繊維を増やし、糖類、ナトリウム、飽和脂肪を減らすことで、製品の栄養バランスを見直しています。

主要指標

MSCI ESG RATINGS AA

V.E

FTSE4Good

CDP DRIVING SUSTAINABLE ECONOMIES

ACCESS TO NUTRITION INITIATIVE

World Benchmarking Alliance

ネスレは、ポリッジ（粥）などの栄養価の高い製品をより手頃な値段で手軽に入手できるように改善する方法、また「マギーブイヨン」やヌードル、*Bear Brand*のミルクといった人気製品の栄養強化を通じて微量栄養素不足の解消に取り組む方法を探求しています。ネスレは、*Vuna*や*Wunda*といった、おいしく栄養価が高く環境負荷の少ないプラントベース（植物由来）のタンパク質製品の開発を進めるとともに、ベジタリアンブランドおよび主力ブランドを通じてプラントベース食品飲料の普及を推進しています。

ネスレは2021年、栄養へのアクセス指数（ATNI：Access to Nutrition Initiative）グローバルインデックスで2年連続第1位を獲得、栄養に関わるガバナンス、戦略、方針および健康に配慮したポートフォリオを社外から認められました。栄養価の高い製品を十分なサービスを受けていない消費者のために手軽に入手できる手頃な価格で製造する、ネスレのPPP（手の届く価格帯の製品群）戦略は、業界をリードする取り組みとして評価されました。

ネスレは透明性の確保に全力で取り組んでおり、WHOコード（母乳代用品のマーケティングに関する国際基準）の遵守状況報告書を毎年ウェブサイトで公開しています。
www.nestle.com/compliance-record

子ども向けの責任あるマーケティングでも、引き続き業界をリードしています。ATNIグローバルインデックスは、ネスレの『子ども向けマーケティングコミュニケーション』の方針、およびコンプライアンス違反是正へのグローバルな対応の仕組みを引き続き高く評価しています。

ネスレは2021年7月、国際食品・飲料アライアンス（IFBA）の責任あるマーケティングに関する新たなコミットメントをアライアンスの他の10のメンバーとともに支持しました。これにより、子ども向けマーケティングの年齢下限が12歳から13歳に引き上げられ、また業界全体の責任あるマーケティング基準がさらに向上することになります。

品質と安全性を最優先に

消費者の皆さまのための品質と安全性は、ネスレの最優先事項です。これは食品飲料からシステム、サービスまでポートフォリオ全体に当てはまります。品質保証と製品の安全性は『ネスレの経営に関する諸原則』の一つに該当し、また『ネスレ品質方針』はこの分野におけるネスレの活動の指針となっています。第三者による検証を受けたネスレのグローバルな品質マネジメントシステムは、食品の安全性、および法律や規制要件、ISO規格、社内基準に準拠した品質基準の遵守を保証する基盤となっています。

持続可能な方法で生産された原材料の調達

追跡可能で、かつ責任ある調達が行われた原材料を購買するために、ネスレは長年サプライヤーや農業従事者と協力してきました。これを足がかりとして、現在はよりレベルを引き上げて、さらに総合的で体系的なアプローチを用いて、サプライチェーン内の社会、環境、動物福祉の評価、対処および報告を行っています。

進捗を評価するために、14の主要な原材料に求められる複数の要件を組み合わせて、“持続可能な生産”に関わる主要評価指標を新たに定義しました。14の原材料とは、コーヒー、カカオ、乳製品、砂糖、穀類・穀物、ヘーゼルナッツ、パーム油、パルプ・紙、大豆、野菜、スパイス、ココナッツ、魚・海産物、肉・鶏肉・卵です。原材料が“持続可能な方法で生産された”と定義するための最低限の基準は以下の通りです。

- 産地(農場または農場グループ)を追跡できる
- 『ネスレ責任ある調達基準』の定義に従って、サプライチェーンにおける実際の、または想定される影響の評価、対処、報告を行うために、人権、環境面のデューディリジェンス制度が整備されている
- 一次サプライヤーが、サプライチェーンで特定された影響への対処を(該当する場合は動物福祉への対処を)、測定可能な方法で進めている

2021年は、新たなKPIの定義と今後の報告に使用するベースラインの設定に力を注ぎました。

人権の尊重

ネスレは、バリューチェーンにおける人権尊重と推進を決意しています。質が高く手頃な価格の食品を長期的に提供できる、環境再生型の食料システムへの公正な移行には、農業従事者の生活向上と困難に負けない農業コミュニティが不可欠です。

グローバルに展開する食品企業として、ネスレのバリューチェーン内の複雑で体系的な人権リスクを評価、対処、是正するためには常に粘り強く取り組む必要があります。2021年12月、デューディリジェンスへの注力をさらに強化するために、過去10年間に得られた教訓に基づいて、ネスレの『人権に関する枠組み』を見直しました。次のステップは、ネスレの重要な人権課題それぞれについて行動計画を発表することです。各行動計画には、バリューチェーンで実施する予定の措置だけでなく、根本的な原因を解決するために必要な共同の取り組みや関与も記載します。この新たな枠組みにより、ネスレが事業を展開する市場で生まれつつある人権デューディリジェンス法にも先んじることができます。

若年層のための機会の創出

環境再生型の食料システムへの移行には、次世代の農業従事者、従業員や消費者の関与が不可欠です。ネスレは、2030年までに世界中の1,000万人の若年層が経済的機会にアクセスできるよう支援に取り組んでいます。

この分野の取り組みの多くは、*Nestlé needs YOUth*プログラムを通じて実施しています。このプログラムは、若者の雇用適正を高め、また起業家としての能力を育むために必要な研修やリソースを提供しています。*Nestlé needs YOUth*はこの数年間に、農業起業家としての若手人材の発掘や研修を通じて、ネスレのサプライチェーンにおける次世代の農業従事者の確保につなげてきました。

原材料の長期的な品質と持続可能性を確保するために、若年層が持続可能で収益性のある農業を営めるよう支援しています。

メキシコシティに拠点を置く社会的企業Promesaは、若年層の教育を通じて世界のごみ問題に取り組んでいます。ネスレの「2021年共通価値の創造(CSV)大賞」で大賞を獲得しました。

2021年は、上位200人以上の上級管理職の27.2%を女性が占めました。2022年1月には、職場のジェンダーバランスを推進したとして、4年連続でブルームバーグ男女平等指数の構成企業に選出されました。また適切な農業手法、財務リテラシー、リーダーシップに関する研修を通じて、ネスレのサプライチェーンに参加する多くの女性の農業従事者のエンパワーメントにも取り組み、彼女たちの事業、所得増大、経済的な自立の推進を支援しています。女性の農業従事者の土地、融資、情報へのアクセスを向上するため支援を行い、業界の多様性と公平性を高めるため、農業パートナーや農業専門家に対してジェンダー啓発研修を行っています。

2021年も、農業従事者向けビジネススクールに重点を置いた、長年続く農業起業家育成プログラムを継続しました。このプログラムを通じて農業従事者は、農場の財務基盤の強化を目指して、必要な経営スキルを学ぶことができます。

ジェンダーダイバーシティの支援

社会をより正確に反映し、社会に資する多様性ある企業づくりを進めるために、ネスレは上位200人以上の上級管理職に占める女性の割合を2022年までに30%に引き上げることをコミットしています。この目標を設定することで、全社的な女性の活躍推進に責任を持つとともに、目に見える模範を示すことを目指しています。ジェンダーにとらわれない『ネスレ グローバル 養育者支援方針』や、4月にスタートする改訂された『Anti-discrimination Policy(差別禁止方針)』などインクルーシブな方針を展開しています。無意識の偏見などの分野でも研修を行い、潜在能力の高い女性を上級管理職に登用するために、メンタリングおよびスポンサーシッププログラムを実施しています。30%という目標達成後も女性比率のさらなる引き上げを目指します。

OUR VOICES 従業員の声

「機会平等の実現に対するネスレのコミットメントは、長年にわたって続いています」

ニルファー・デミルコル
ダイバーシティ&インクルージョン部門責任者
(スイス)

気候変動対策

ネスレは、気候変動が事業にリスクをもたらすこと、断固たる行動をとる用意がある企業には機会をもたらすこと、この双方を認識しています。だからこそネスレは温室効果ガス排出量実質ゼロのプレッジ(約束)を掲げています。供給逼迫、炭素税引き上げ、土地利用の制約、農業助成金の変動などの政策変更、ネスレの評価に影響を与える社会的関心の高まりなど、気候関連のリスクを特定しました。

ネスレの直接的、間接的温室効果ガス排出量の70%以上が農業サプライチェーンに由来するため、私たちは生産者が直面する物理的リスクを何よりも重視しています。10年間の取り組みに基づいて、ネスレはサプライチェーンのレジリエンス(強靭性)を高める堅牢な気候変動への緩和適応計画を策定しています。例として、干ばつに強いコーヒー豆の品種の研究(『アニュアルレビュー』内、粉末・液体飲料のケーススタディを参照)や、排出量削減と動物福祉の向上を実現しつつ酪農農家の効率性を高める新技術への投資などを行っています。

2021年も、バリューチェーンの長期的な物理的リスクの評価を通じて、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の枠組みを引き続き適用しました。詳細は、『second TCFD report(第2回TCFD報告書)』(www.nestle.com/tcfd-report)でご覧いただけます。2021年は、自然環境に関連するリスクと依存に関する報告方法について総合的な理解を深めるため、自然関連財務情報開示タスクフォースの作業部会にも参加しました。

プラスチック汚染への取り組み

プラスチック汚染への取り組みは喫緊の課題であり、ネスレが真摯に取り組んでいる問題です。ネスレのビジョンは、プラスチックを含むすべてのネスレ製品のパッケージを一切埋立て、海、湖や川などへの投棄処分に終わらせないことです。

ネスレ ウォーターズは、洪水リスクや水不足などの水に関する共通の課題の管理を支援するため、地域レベルで取り組んでいます。

プラスチック汚染に対処するためのネスレの戦略は、包装材料の削減、リユース可能・詰め替え可能システムの拡大、代替素材の開発、ごみゼロの未来に向けたインフラ支援、新たな行動の推進という5項目から構成されます。

2021年は、ネスレ製品パッケージに使用されるバージンプラスチックを2018年と比較して8.1%削減しました。ネスレは、プラスチックパッケージの削減活動を推進しています。

ネスレ フィリピンは2021年、初めて通年で「プラスチックの中立性」を達成し、パートナーとともに27,000トン以上のプラスチックごみを回収、再加工しました。これは同じ期間にネスレ フィリピンが製造したプラスチックを若干上回る量に相当します。

ネスレの「2021年共通価値の創造大賞」は、ごみの未来を変革して循環型経済の実現推進に取り組む5つの団体に授与されました。大賞は、メキシコシティを拠点とする社会的企業Promesaに贈られました。Promesaは、南米各地の学校と連携して、国際的なごみ問題を解決するため若年層に教育を行っています。

ウォータースチュワードシップの向上

ネスレの長期的な成功は、私たちが原材料を調達し、工場を操業し、製品を販売する地域で、水を持続可能な形で確保できるかどうかにかかっています。しかし科学者の予測によると、気候変動に伴い、流域の約半分が2050年までに限界に達するとされています。水は共有の資源であり、現地のステークホルダーと連携しなければ課題に対処できません。ネスレのウォーター事業は、水循環の環境再生において先鞭をつけています。

ネスレのサプライチェーンでは、現在水が不足しているか、あるいは気候変動の影響でそうなる可能性がある地域のレジリエンスを高めるために、サプライヤーや農業従事者と協力しています。ネスレはすでに、優先度が高い地域において、穀類、コーヒー、乳製品、砂糖、トマトなど特定の作物の需要に応じた行動計画を策定しました。ウォータースチュワードシップを、ネスレのグローバルな再生農業プログラムに取り入れていきます。

水循環の環境再生の推進

ネスレ ウォーターズは、ボトリング施設周辺の地域の生態系の再生を促す100件以上のプロジェクトの実施を支援するため、1億2,000万スイスフランの投資を行っています。2025年時点では、これらのプロジェクトにより、ネスレが事業活動で使用する水量以上を自然界で保水することになります。

温泉地として有名な英国のバクストンで、ネスレは、現地のステークホルダーと協力して自然を利用した実用的な洪水防止策を考案しました。目的は、土壌により多くの水を保持して、水が急激に川に流れ込んで氾濫が起こるのを防ぐことです。バクストンで実施するすべての介入は、生物多様性と二酸化炭素回収の推進を目指したものでもあります。

温室効果ガス排出量実質ゼロのプレッジ（約束）から1年

2020年12月、ネスレは『Net Zero Roadmap』を発表しました。これは、事業の継続的な成長と並行して2030年までに直接的、間接的な温室効果ガス排出量を2018年比で半分に削減し、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための計画を詳細かつ綿密に示したものです。

南アフリカのSkimmelkransにおけるネットゼロカーボンエミッションプロジェクト

2023年までにネスレ初の温室効果ガス排出量実質ゼロ農場を実現します。

8月、気候変動に関する政府間パネルで、気候危機が深刻化していることが確認されました。約束だけでは十分ではありません。早急な行動を大規模に起こす必要があることが、かつてないほどに明確になりました。

ロードマップの発表から1年の間に、ネスレは新たなフォレストポジティブ戦略を立ち上げ、今後5年間にわたる12億スイスフランの再生農業への投資を開始し、4ブランドでカーボンニュートラルを達成しました。

ネスレは、生態系を守り、生物多様性を高め、農業に起因する排出量を削減する農法を導入するため、原材料を生産する農業従事者を世界的に支援しています。一部の取り組みは、農業従事者との直接的な関係を通じて実施されています。その一例が、南アフリカのGeorgeで実施しているSkimmelkrans ネットゼロカーボンエミッションプロジェクトです。このプロジェクトは、2023年までにネスレ初の温室効果ガス排出量実質ゼロ農場の実現を目指しています。また、間接的に調達する原材料については、サプライヤーと協力して取り組んでいます。事業活動で利用する電力については、2025年までに100%再生可能電力に切り替えます。

工場廃棄物をエネルギーに変換

「ネスカフェ」、「ネスプレッソ」の工場から出た余剰なコーヒーかすを燃料にしてバイオガス発電を行い、ミネラルウォーター*Henniez*のボトリング工場に熱を供給し、また地域住民に電力を提供しています。

ネスレでは現在、温室効果ガス排出量のパフォーマンスを四半期毎に経営陣に報告しています。2018年以降、ネスレの各種プロジェクトを通じて400万トンの温室効果ガス排出量削減（CO_2換算）を達成しました。またネスレの各種プロジェクトを通じて、CO_2換算で970万トンの温室効果ガス除去にも着手し、削減量は合計1,370万トン（CO_2換算）となりました。これは、2030年までに排出量を半減するというロードマップの目標に合致するものであり、残る9年間に削減量、除去量は増加する予定です。

ネスレの『Net Zero Roadmap』:
www.nestle.com/net-zero

変化を支持

転換点となる2021年も、ネスレは温室効果ガス排出量を迅速かつ持続的に削減するために、意欲的な各国政府の政策や民間部門のリーダーシップを引き続き支持しました。その例として以下があります。

- 世界経済フォーラム、We Mean Business [1]、Glasgow is our Business [2]など、各国政府が気候に関する全体的な目標を引き上げ、気温上昇1.5℃未満への抑制を実現可能なものにするためのグローバルな行動要請に参加
- 世界的な前進を政策立案者に対して訴える団体を支援するため、COP26のイベントで講演
- ネスレの温室効果ガス排出量実質ゼロの長期的な目標をフィリピンやタイなどの国において国別削減目標と連動させる、特定国に対して排出量削減の加速を求める行動要請に参加するなど、市場レベルの支持活動

訳注
(1) We Mean Business
企業や投資家の温暖化対策を推進している国際機関やシンクタンク、NGO等が運営する国際的プラットフォーム

(2) Glasgow is our Business
グラスゴーでのCOP26開催に先立ち気候変動対策を講じることを宣言する企業による国際的イニシアチブ